

研修を担当される先生へ

この研修は、次のことをねらいとしています。

いじめを未然に防止するために、既存の教育活動をいじめの未然防止の視点でとらえ直し、学校でどのような教育活動を進めていくとよいのかを、全ての教師が考える。

1 校内研修パッケージの構成

研修に充てることができる時間により、2種類の時間帯が選択できます。

- ・60分程度の研修を1回行う。(60分用)
- ・30分程度の研修を2回行う。(30分2回用)

学校の実態に応じて選択し実施してください。可能であれば、60分の研修を土台に、説明や演習（作成及び交流）の時間を十分に充てるというように、80分程度で行うことをお勧めします。

資 料	概 要
①研修を担当される先生へ〈本資料〉	<p>研修を円滑に進めるポイントについて示したものです。研修を担当される先生が事前に目を通されるとよいでしょう。また、何人かの先生が協力して進めることをお勧めします。</p> <p>※(60分用)、(30分2回用)とも同じです。</p>
②進行表	<p>研修の流れについて示したものです。おおまかな研修の内容や配当時間等を示していますが、学校の実態に応じて工夫して活用願います。</p> <p>※(60分用)、(30分2回用)で異なります。</p>
③パワーポイント資料（説明原稿付き）	<p>研修における説明資料です。パワーポイントとスライドに対応する説明原稿が一緒になっています。説明する内容についても、学校の実態に応じて工夫して活用願います。</p> <p>※(60分用)、(30分2回用)で異なります。</p>
④活動のマトリクス	<p>研修で使用するワークシートです。12のマスに分かれており、いじめの未然防止に向けた教育活動を当てはめていきます。</p> <p>※(60分用)、(30分2回用)2つとも同じですが、小学校と中学校・高等学校用とで違いがあります</p>

2 効果的な研修にするために

次のことを準備しておく、一層効果的な研修となります。

①事前に配付するもの



「いじめ未然防止モデルプログラム【平成28年3月版】」などを先生方に事前に配付して目を通してもらいます。
※量が多い資料なので、必要と思われる箇所を選ぶとよいでしょう。

②研修の役割

〈事前の打合せ〉

事前の準備をしっかりと行うことが大切です。



研修の全てを一人の教師が担当するのは大変なので、説明する役割や司会の役割を決めるなど複数教師で研修を進めるようにします。

そこで、この研修を担当する分掌の教師を中心とするチームを編成し、事前にパワーポイント及び説明原稿の内容を確認したり、マトリクスを作成したりするといった打合せを行っておくとよいでしょう。

※チームの構成は、担当する分掌や、各分掌から1名ずつ、といったことが考えられます。

〈当日の役割分担〉

役割等	担 当	業務の内容等
司会・進行	教師Bまたは教頭	進行表で時間や内容を確認しながら、研修の司会・進行を行います。
説明	教師A	説明資料に基づき、内容について説明します。説明するだけでなく、他の教師の意見に耳を傾け、よい点を認めたり、全員で研修を進めていく雰囲気づくりをしたりします。
グループ1進行 グループ2進行 グループ3進行	教師B 教師C 教師D	教師の数に応じて、3～4人程度のグループを編成します。各グループに、進行役として研修の内容を事前に理解した教師を配置するとよいでしょう。 進行役の教師は、グループ協議が滞らないよう、行事予定表を確認してもらったり、事前の打合せに出た意見等を紹介したりするなどアドバイスをし、他の教師の考えを引き出します。

3 研修の充実を図るためのQ & A

〈研修の実施時期に関わること〉

Q1 研修の実施時期はいつが効果的ですか。

A1 いつでも構いませんが、次年度の教育課程を編成する際の参考としていただいたり、学校いじめ防止基本方針等の見直しに活用したりしていただければと思います。

Q2 すぐに研修を実施したいのですが、どのようなことに配慮すればよいですか。

A2 研修後に行う「マトリクスに位置付けた教育活動」については、教師が「この教育活動はいじめの未然防止につながっている」という意識のもと、それぞれの教育活動にいじめを未然に防止する視点を取り入れるなど工夫を図ってください。

〈研修の内容や方法に関わること〉

Q3 研修パッケージの内容を学校の実態に合わせて変更してもよいですか。

A3 変更しても構いません。パッケージの内容について、学校や児童生徒の実態に合わせて、内容や時間などを適宜変更するなど工夫して御活用ください。

Q4 先生方が共通理解を図るためのポイントはありますか。

A4 ワークショップ型研修となるよう工夫しましたが、校長や教頭に、研修の内容を事前に報告するとともに、研修会の最初に学校の現状や目指すべき姿などについて話をしてもらったり、まとめをもらったりするとよいでしょう。また、新しい活動を始めるのではなく、既存の教育活動はいじめの未然防止の視点でとらえ直すことが大切であることを説明してください。

Q5 いくつかの枠に当てはまる教育活動がありません。

A5 無理に当てはめる必要はありません。しかし、当てはまる教育活動を今後実施する必要があるかどうか検討してみることが大切です。

〈そのほか〉

Q6 完成したマトリクスについて、どのような使い道がありますか。

A6 マトリクスは、自校のいじめ未然防止に関わる教育活動の内容について整理して示すことができることから、まずは、先生方が共通理解を図るのに活用できます。このほかに、学校便りや自校のWebページで紹介し、保護者や地域住民の理解を得ることなどに活用することが考えられます。

Q7 マトリクスが完成しました。その後どうすればいいでしょうか。

A7 PDCAサイクルに基づき、活動の充実を図ることが大切です。また、教師と児童生徒がともに、「学級のマトリクス」を作成し、学級における「居場所づくり」、「絆づくり」、「環境づくり」の充実を図ることが考えられます。

〈研修のさらなる充実に向けて〉

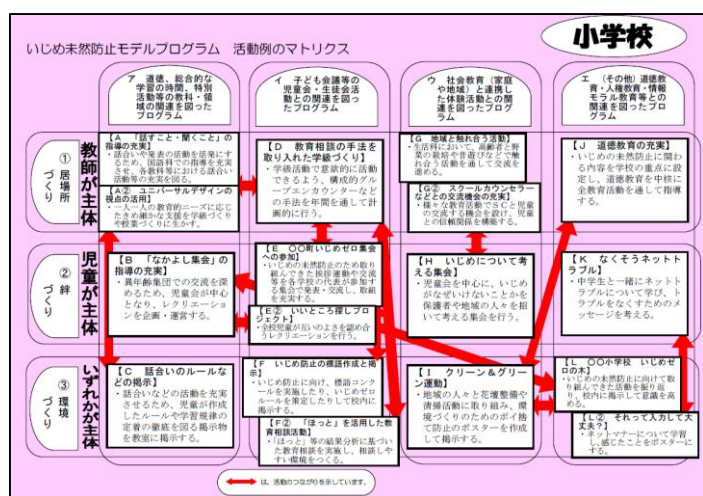
Q8

時間を十分にとって、じっくり研修をしたいと思います。どのように進めたらよいですか。

A8

このような研修をお勧めします。

- ①パワーポイント資料を使って説明する。
- ②いじめ未然防止モデルプログラム【平成28年3月版】等を使って、マトリクスや活動の概要等を説明し、自校の取組と比較するなど協議を行う。
- ③マトリクスに教育活動を直接書き込まず、付箋に教育活動を書き、それらをマトリクスに貼り付ける。「居場所づくり」→水色、「絆づくり」→黄色、「環境づくり」→ピンクなど、3色の付箋を用意する。
- ④グループに1枚、A3に拡大したマトリクスを配付し、一人一人が付箋の内容を話しながら、拡大マトリクスに貼り付けていく。
- ⑤各グループのマトリクスが完成したら、実物投影機等を活用しながら全体で発表する。
- ⑥研修の感想や気付いたことを発表する。
- ⑦担当及び管理職が講評を行う。
- ⑧完成したマトリクスを会議室などにしばらく掲示しておく。



マトリクスは、小学校と中学校・高等学校用とそれぞれありますが、発達の段階に応じて内容を工夫することにより、校種にこだわらず実施できる教育活動もあります。勤務している校種と別のマトリクスや活動例もぜひ目を通してください。

また、異校種が連携した活動も、効果的です。近隣の学校と一緒に研修を行うことも考えられます。

本研修パッケージに関する御質問や御相談につきましては、
北海道立教育研究所研究・相談部 011-386-4520まで